

つくしだより



平成27年8月号

東地域ブロック家族相談員養成講座

都連理事 徳山尚子

6月21日、江戸川区船堀タワーホールで東ブロックの家族相談員養成講座が開かれた。

講座に提出される事例は、いずれも家族会の相談員が日頃、電話や来所で相談を受け、解決の方向が見いだせない中、何か手立てはないのかとともに悩み苦しんでいる相談現場の生の声である。自分の場合はこうだったが、この人の場合はどうしたらいいのだろう、当事者もこれでは苦しいだろう。なんとかこのお母さんの負担を軽減できないかと家族相談員だからこそ共感し、相談の裏側に潜む様々な問題をわがことのように受け止める。お母さんはこうおっしゃるけれどもっと深刻なのではないか。言葉にならない表情や声の調子に一喜一憂する。困っている家族と本人の状況を救えないか、変えられないか、一歩でも前進できないかと模索しているのが家族相談の現場である。今回、協力いただいた事例も相談を受けた家族会相談員が一緒に悩み、考えたすえ打開策がなく、やむを得ずヒントでもいただけない

かと提出いただいた例である。

一例目は、当事者が障害年金を受給すると通販での買い物に使ってしまふという家族からの相談。足りなくなるかと親に借りる。親は必至で働いている。いろいろ相談に行かれたが、これといって解決策はなく、本人の浪費は止まらない。

会場から、うちもそうだったという声があがる。親の世代は浪費は罪、まじめに正直に無駄をせず生きてきたのに、こどもの浪費に手を貸すのが無念である。浪費をやめさせるにはどうすればいいの。本人にいくら言ってもやめはしない。やめるのはお金が無くなったときだろう。では親はどう対応したらいいの。

東ブロックでは家族相談員養成講座に羽藤先生を講師に迎え、こんな場合どう考えたらいいのか助言をいただいている。先生からは、「この人は大きく分類すればひきこもり。親が世帯分離をして本人を自立させる。自立といっても親が思うような自立にはならない。本人のためだけに来てくれる第三者を入れること。訪問看護もよい。」とヒントをいただいた。相談員の「どうすればこのご家族が明るく暮らせるだろうと思うんで

す」という言葉が胸に響いた。

二例目も両親からの相談で当事者は40代後半になるその長男。事例は本人が児童期からのいじめ体験に始まり、不登校の高校時代、寝たり起きたりの大学生活(中退)、職場、作業所も長続きせず服薬中断、医療中断という長い経過を経ての相談である。医療につなげたい、服薬の習慣を持ってほしい。家族の相談を受けて以来、相談員はなんとかして両親の役に立てないかと関係機関や移送会社など手だてを尽くして考えてきた。しかし、これといった解決策が得られないまま、親の不安、心配が増大しているという現状である。

会場からは次々、質問や感想が出た。先生からは、この人の関係先が責任を果たしていない。主治医も作業所も保健師さんも何もしていない。これを断片化という。家族会が親に付き添って主治医にお願いに行つてはどうか、作業所の所長さんにも動いてもらつてはどうかと意見をいただいた。

出席者一同、相談員と事例の家族に思いを寄せたひとときである。



初めての家族会合同精神科病院見学会

都連副会長 植松和光

まさか精神科病院を見学できるとは思っていませんでしたが、家族の病院を見たい、病院の職員と懇談したいとの想いを、気持ち良く受けとめて頂いた駒木野病院を見学することができました。

駒木野病院は八王子市高尾町の小仏にありました。精神科病院というと暗いイメージですがそんな感じは全くありませんでした。玄関ロビーは明るく綺麗で患者さんがゆっくりにくつろいでいました。救急病棟の病室は全個室で窓が障子になっていてところもあり、患者さんの気持ちに配慮した作りになっていました。回復期病棟はもう少しで退院する患者さんの病棟で、職員の皆さんと楽しそうに話されていました。また、どの場所を見てもとてもきれいで清潔だったことが、とても印象的でした。

懇談会は午後2過ぎから午後4時半までの長時間の懇談となりました。家族は6家族、会23名、駒木野病院からは菊本理事長兼院長、宮崎副院長兼看護部長、神事務長など病院の責任者を始め医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・事務職員等26名もの職員の方が参加してくれました。最初に、菊本院長から病院の基本理念である「心のこもった質

の高い精神医療」について、精神科専門医療に特化した病院として小さな子供から高齢者まで、全ての患者に最善の医療を尽くして取り組んでいることが話されました。参加者からは・統合失調症と発達障害の特性について・救急医療について・薬の説明と情報提供・就労への支援体制・家族への患者の病状説明等の対応についてなどの質問があり、それぞれの質問に丁寧に答えて頂きました。



今回の病院見学会に参加して感じたことは、精神科病院が地域に開かれた病院でなければならないということです。障害者権利条約の批准、障害者差別禁止法の

制定等外的要件の整備は進みつつありますが、差別や偏見はまだ根強いものがあるからです。その点、駒木野病院は地域の障害者施設等との連携や医療の質を上げるため、医師だけではなくすべての病院スタッフが精神疾患患者を社会に再び送り出すために力を注がれていることを感じることができました。これからも他の病院も見学できればと思います。

早期発見・早期治療に関する

啓発事業の取組みについて

都連副会長 植松和光

統合失調症を始めとする精神疾患は、発症を本人は勿論回りの人もとても気づきにくいものです。そのため、専門機関への相談や治療へつなげることがどうしても遅くなってしまう。それは、私たち先輩家族の教訓です。ですから、わが子や家族、友達等が様子がおかしいなと思ったら、声かけをすることがとても大事です。

そんな、きっかけを作るための啓発講演会と発症時期が最も多い中学生を対象にしたリーフレットを作成することにしました。東京都の委託事業で行います。ご期待ください。

① 講演会 11月21日(土) 午後2時
場所 武蔵野公会堂

講師 駒木野病院児童精神科

診療部長 笠原 麻里氏

② 講演会 1月24日(日) 午後2時
場所 練馬区ココネリホール

講師 精神科医 香山 リカ氏

③ リーフレットの作成

都内の中学2年生約7万3千人の作業にお届けします。

発行は来年の1月末を予定しています。



東京都への要望活動について

私たち家族は「もっと怒りを」

都連副会長 本田道子

来年度28年度の予算要望に向けて皆様
「心身障害者福祉手当」についての調査をお
願いしたのは4月の桜の時期でした。すぐ
ご協力して下さった各家族会のみなさま
に心より感謝しております。

先月の「つくし日より」に同封いたしまし
た報告書に一覧表にしたものを載せました
のでご覧ください。この結果からは何がわか
るのでしよう。

精神の障がい者には福祉手当が全く対象
とされていない、という大きな事実です。

わずかに今までの家族会の必死の努力によ
って杉並区、品川区、足立区の3区のみが区
の予算によって少額が支給されているのに
すぎないのです。身体障がい、知的障がいの
方たちに支給されている福祉手当が精神の
障がい者には東京都からの支給が全くない、
ということに私は大きな違和感があります。

東京都は精神障がい者は「障がい者」とし
て認めていない、あるいは「認めたくない？」
のでしょうか。いいえ、東京都が発行してい
る文書からは手帳を取得することによって
自立につながるさまざまなサービスを受け

やすくするもの、であるという記載がありま
す。けれど現実はどういうこと、なのです。
怒り？がふつふつと湧いてきます。

7月2日早速に今年度の第1回目の福祉
保健局との交渉に入りました。

① 心身障害者福祉手当の2障害と同様の水
準での支給

② 医療助成（マル障）の完全実施
が今年の要望項目です。

教育庁にも昨年同様に

① 中学卒業までに精神疾患に対する知識を

② そのために教職員全員に研修を実施

③ 保護者・学校関係者の早期発見、早期治
療に結びつく教育環境を作る

第1回目の結果は昨年同様に芳しいもので
はありませんでした。しかし、少数での交渉
で見えてきたものもありました。

夏さかり、これからは都議会に向けての活
動をしてゆきます。

今年のつくし会はさまざまな事業が多く
せかされて仕事をこなす毎日です。あっとい
う間に梅雨が明け今日は暑い夏のさかり。み
なさまもこれから各家族会で区や市、町との
交渉が始まっていることでしょう。

怒りはエネルギーの源です。こんな不自然
な都の行政にもっとみんなで怒りましょう。

★賛助会費★ (敬称略)

柳沢クリニク	5000円
横山クリニク	5000円
北小岩診療所	5000円
くるみクリニク	5000円
多摩病院	10000円
栗洲美紀	20000円
江畑クリニク	50000円
竹村 堅次	50000円
代々木の森診療所	50000円
宮本 里詩子	20000円
心療内科アーツクリニク大崎	50000円
幸仁クリニク	50000円
板橋 仁	20000円
東京パトロール	100000円
山本メンタルクリニク	50000円
戸島 絹江	20000円
今井 康夫	20000円
五反田メンタルクリニク	50000円
吉田 晴哉	20000円
野の花メンタルクリニク	50000円
上杉クリニク	50000円
小島 陽子	100000円
中山クリニク	50000円
大倉診療所	50000円
北千住旭クリニク	50000円
土屋 米子	200000円
明神下診療所	500000円
あきる台病院	1000000円
安田 学	2000000円
錦糸町クボタクリニク	5000000円
榎本クリニク	10000000円

ありがとうございます。

交通運賃に関する署名についてのお願い

都連会長 眞壁博美

◆送り方

左記へ郵送してください。

・ファックスやコピーは無効となります。

156-0056

東京都世田谷区八幡山3-33-1

林マンション 301

東京つくし会事務局

◆署名についての注意点

・ひとりずつの自筆です。

・ボールペン又はサインペンの黒を使用。

・住所は都道府県名からです。

・「同上」や「〃」は無効です。

・住所は日本国内のものを記入。

日本国内にお住まいであれば、外国の方でも署名できます。

◆署名期間

最終集計は来年4月ですが、つくし会は、8月末、11月末、2月末、4月末と四回に分けて集約しますので、よろしく願います。

◆募金について

・コピー代郵送費など、単会で必要とする経費にお使いください。

・募金額は、お知らせください。詳細は不要です。



講演会のお知らせ

☆9/11(金)「家族だからできることと社会で支えること ～私が家族から学んだことを通して～」

講師：やどかりの里常務理事・情報館長 増田 一世氏

主催：杉並家族会 問合せ：あおば福祉会リブレ TEL：03-3392-7946

☆9/12(土)「人が回復するとはどういうことか ～家族・当事者・精神科医としてお伝えしたいこと」

講師：やきつべの径診療所 医師 夏苺郁子氏 主催：新宿フレンズ TEL：03-3987-9788

☆9/12(土)「私にとっての家族、会社、仕事とは…」 主催：FHMの会 080-9033-4048

講師(株)佐々木常夫マネージメント・リサーチ代表取締役 佐々木 常夫氏

☆9/19(土)「脳と心 25年脳科学研究、精神医療の新しい治療方法に挑む脳科学者の私に、父と母が命がけで教えてくれたこと」講師：東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成氏

主催：あじさい会(小金井市) TEL：042-388-3729

☆9/26(土)「くわしく知りたい精神科の薬」講師：桜ヶ丘記念病院 薬剤部長 佐藤 康一氏

主催：サンクラブ多摩 TEL：042-371-3380

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

編集後記

先日、七月十八日(土)の午後、品川かもめ会主催の講演会を聞きに行き、品川を打たれたお話を伺った。

講師は、東京都医学総合研究所の糸川昌成先生で、演題は「脳と心」である。脳は治っても心は治ったとは言えないエピソードとしてお母さんのことを述べておられた。同氏のお母さんは同氏がうまれて直ぐ統合失調症に罹られ入院を繰り返していたらしいが、その後、糸川家ではお母さんのことがタブーとして語られることがなかった。つい二年前に漸く全体がわかってきた。母の姉に聞いたところ、一面会に行くとは母は、ほとんど病気のようには見えなかったというのです。おそらく抗精神病薬が効いて、幻聴と妄想が治まっていたのだろうと思うのです。でも、退院させると具合が悪くなってしまう。いわゆる薬で脳は治った状態になっていたのだけれど、生きる人としての回復を遂げられない状態がずっと続いていた。三十年間のこの状態が吹っ切れた時のこの写真が、今、自分が一番好きな写真ですとのことでした。長く薬で脳だけが治っていた母が、魂が救済された時に、こういう笑顔をしている。笑い声が聞こえてくるような笑顔をしている。

都連副会長 松沢 勝

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。